

「あきらめる」体験

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2846号
(2011年8月15日発行)より

「あきらめる」ということばは、一般的には、何かを断念するという意味に使われます。でも、本来は仏教用語であり、「ものごとをあきらかに見る」「真理をつまびらかにする」という意味であり、「断念する」というのは、あとからつけ加えられた意味であるようです。

私は、ことばの研究者ではありませんから、あくまでも印象で書きますが、音的にも、「あきら」は、「明らか」に通じるので、暗い音ではありません。

それにつづく「める」も、「め」は、「目」「芽」に通じる音。「る」は「留」「流」をイメージさせて、強さをもっています。「断念する」に通じるといえば、最後の「る」が、ストップさせる音と言えなくてもありませんが、どうも納得のいく感じがしません。

そんなわけで、実は、私は、積極的に「あきらめる」派です。もちろん、本来の意味での。

ただ、あとからの意味が、いまではあまりにも一般的になってしまっているために、おもてだつては使えません。誤解されちゃいますから。それで、使うときには、こんなふうに、いちいちことわり書きをしてからになるというわけなのです。

さて。本題。最近、「あきらめる」体験をしました。(しつこいようですが、本来の意味で)

最初、それは、あまりうれしかたちでは、やってきませんでした。はっきり言うと、「なんでや〜」という感じです。すごく感情もゆれたし、自分の考えをみとめてもらいたくて、じたばたしたりもしました。

でも、いろいろな情報を得ながら、あれこれ考えてみると、当初、「なんでや〜」と思ったことも、なるほど、角度を変えてみればそういう見かたもあるなあと、納得がいったのです。うれしくはなかったですけどね。(笑)

感情というものは、エネルギーであることがわかっていますから、そんなときは、押し殺さないのが一番です。ひとりで味わったり、ときには、親しい友人に聴いてもらったりしながら、昇華させました。

ある意味、病気と同じで、熱が出たり、どこかが痛んだりして、苦しく感じるものですが、きちんと経過させてやると、あるとき、スコッと抜けていきます。すると、突然、「あきらか」になるときがやってくるのです。ああ、そういうことなのだなど。はい。「あきらめ」の境地です。(笑)

何かがあきらかになるということは、もう、あきらかでなかったときにはもどれないということです。ミモフタモナイたとえで言うと、天は、地球を中心にまわっていると思っていたのに、本当は、地球のほうまわっていたんだとわかつちやつたというようなことです。

もちろん、知らなかったことにして、そのままにすることもできますが、でも、本当に「あきらめた」ときには、その選択はできません。自分をごまかすことになりますから。

だから、「あきらめる」ということは、ときには、これまで勝手に信じていたことを、てばなさなければならないこともある、ということです。てばなしてしまつたら、もう、次のステップにすすむしかないので。「あきらめる」ということが、さびしきやかなしみにつながるのは、そんなときです。誰だつて、慣れたしんだものには、愛

着を感じますからね。

それでも、勇気をもっててばなすのです。あらたな世界に向かって、一步を踏み出すのです。あきらめたひとだけが、その一步を踏み出すことができるのです。

そんなわけで、私も今回、「あきらめる」体験をしました。そして、次の一步を踏み出すことに決めました。まだちょっと、どこかに痛みは残っていますけどね。大丈夫です。「あきらめた」からこそ、選択できたことですから。

これからの人生も、私は、「あきらめ」ながら生きていこうと思います。

願わくば、すべてのひとが、前向きに「あきらめ」て(笑)生きていけますように。「あきらめる」ことで、世界が、よりかがやく方向に、変わっていくことができますように。祈ります。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊。2011年6月、2800号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>